

2023年度 大阪公立大学

小 論 文 問 題

(工学部 建築学科)

解答時間 120分

注 意 事 項

1. 問題冊子は、監督者が「解答始め」の指示をするまで開かないこと。
2. 問題冊子は、表紙を含めて全部で5ページである。脱落のあった場合には申し出ること。
3. 解答用紙（2枚）及び下書き用紙（2枚）は別に配付する。脱落のある場合には申し出ること。
4. 解答開始後ただちに、すべての解答用紙の所定欄に、受験番号を丁寧に記入すること。
5. 解答は、すべて解答用紙の所定欄に記入すること。
6. 解答に字数の制限があるときは、句読点や記号も含めて数えること。
7. 解答以外のことを書いたときは、該当箇所の解答を無効とするときがある。
8. 問題冊子の余白は下書きに使用してもよい。
9. 解答終了後、配付された解答用紙はすべて提出すること。問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。

第1問（50点）

以下の文章を読み、設問に答えよ。

著作権の関係により、公表しません

著作権の関係により、公表しません

毎日新聞 2022/5/22 東京朝刊 社説 より

問1 下線部(a)を実現するため、平成22年に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が制定され、さらに令和3年にはこれが「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」として改正された。建築物において木材利用を促進することがなぜ脱炭素社会の実現に資するのか、林業から建築までの流れを例に挙げて200字程度で説明しなさい。

問2 建築物において木材利用を促進するためには、どのような社会的、技術的等の問題があり、それを解決するためにはどのような方策が考えられるか、あなたの考えを含めて300字程度で述べなさい。

第2問（50点）

以下の文章を読み、設問に答えよ。

京都で見るべきは、近現代建築だ。この言葉は「近現代」と「建築」に分かれる。この二つがどんなものか、京都に来るとよく分かる。本書は、今までにありそうでなかった、その手引きである。

「近代」という言葉は日本では一般的に、1854年に開国した後の時代を指して使われる。「現代」は第二次世界大戦が終了した1945年から現在までになる。これらは私たちが真っ先に知ると良い時代だ。なぜそう言えるのか？理由がいくつかある。

一つには、今を生きる私たちと最も関係が深いこと。「今」といっても、この瞬間、すべてが生まれたわけではない。目に見える風景であったり、それをつくっている決まりごとであったり、受け止める心の癖であったりといったことも、少し前から受け継がれている。その時代を知ることは、現状の理解を助けてくれる。

二つ目に、同じに見えて、今と実は違うということ。近現代の日本というと、今のここと、年代的にも地理的にも、あまり違いがない。では同じかということ、意外にそうでもない。近現代は、世界的にも変化の激しい時代だ。特に日本にとっては、先ほどの「近代」と「現代」とが割にキリッとした区切りになっていることから示唆的なように、激しい荒波の中に漕ぎ出した時期である。

第二次世界大戦の前と後とがそれぞれに一樣な状態だったわけではないし、皆が一緒に一定の方向を目指して行動していたわけでもない。ましてや、ある時代が全面的に良い、悪いなどというものでもない。どの時代も、それ以前の時代があり、その先は見え、個々人が自分の視界をもとに判断して動いていた。同じ人間しかいないのだから、その点では、今と同じだ。

一方、当たり前にとっている振る舞いや考え方には、大きな違いがあったりもする。近現代も歴史の一部だ。同じであることに驚いたり、違うことに納得したりできる。近いから、自分ごととして捉えやすい。ここから遠くの年代や場所の歴史に思いを馳せたい。理解は、今の世界を捉えるのも役立つだろう。そして理解すること自体が、時に苦しさを伴いながらもかもしれないが、個人の生に現れる

世界の深みを増すに違いない。

三つ目に、近代以前の時代から、よりさまざまなものを引き出すきっかけになること。私たちは、よく近現代のレンズを通して、それよりも前のものを捉えている。例えば「伝統」と言った時に、現在の国や地域、あるいはジャンル区分を前提に見てしまいがちといったことだ。現実には、それが今と違った行動の合理性に支えられていたり、整理された時代は意外と新しかったりする。

倉方俊輔『京都近現代建築ものがたり』平凡社新書 2022 より

問1 あなたがこれまでに体験したことのある近現代の建築を1つ選び、その建築がどんなものであり、現在に与える意味がどのようなものであるか、あなたの考えを含めて400字程度で述べなさい。